

3-5 情報倫理教育研究集会

本研究集会は、情報倫理教育を振興普及させるとともに、授業の水準を高めることを目的として開催するものである。本年度は、情報倫理教育のプレ学習や授業中の補足説明資料として、本委員会委員が試行的に作成したeラーニングによる授業モデルを提示し、その上で、教育内容、教材作成、支援体制等、情報倫理教育の実施に関する種々の問題について意見交換を行い、情報倫理教育のより一層の普及、質的向上に向けての共通理解を得ることを目指すことにした。本研究集会の企画・運営は、情報倫理教育振興研究委員会が対応した。

(1) 開催要項の決定と実施

本研究集会は、全学的に情報倫理教育に取り組んでいる大学が少なく、情報収集を目的とする参加者が多いことから、具体的な授業モデルとeラーニング教材を委員会より提示し、その後で情報倫理教育実施のための方策について全体討議を行うこととした。

分科会では、教材作成のための情報技術、ネットワーク活用技術、素材の収集方法、コンテンツの作成方法など、授業運営に関する技術について検討する「授業運営技術検討分科会」と情報倫理教育を実施するための授業テーマ、内容、水準など、授業の内容や運営方法に関する種々の問題点を検討する「授業内容検討分科会」を設け、テーマを絞って意見交換を行うこととした。

平成14年度情報倫理教育研究集会開催要項

1. 日時：平成14年9月6日（金）
2. 会場：立教大学池袋キャンパス 8号館

3. 開催趣旨

当協会では、コンピュータやネットワークを利活用する上での情報の取り扱いを大学教育の中で振興普及するため、10年前から「情報倫理教育」の必要性を掲げ、これまで情報倫理教育を理解し、実施するためのテキスト等を刊行するとともに、ネットワーク上にサイバー情報倫理教育支援センターを構築して、情報倫理教育に携わる教員相互の情報交流、教材の相互利用、合同授業の仲介などの支援を行っている。

しかし、情報倫理教育の水準・内容が十分に理解されていないことと、教育の内容が多岐に亘ることから、担当する教員の側に十分な準備ができていないことなど、実態は緒についたばかりで十分に成熟していないことが判っ

た。

そこで、平成13年度より、情報社会での加害防止・被害防止の教育について教職員とともに討議し、情報倫理教育を振興普及させるとともに授業の水準を高めることを目的とする研究集会を開催して、理想とする情報倫理教育の実現に寄与したいと考えている。本年度は、ポータルサイトを介した教材・資料の共同利用、ビデオ・オン・デマンドによる授業支援など、ネットワーク上で教員が連携する新たな授業運営のあり方を模擬授業として紹介し、大学連携による情報倫理教育の可能性を見極め、授業の質的向上に向けての対応について理解を共通化することを目指している。

4. プログラム

10:00 開会、趣旨説明

10:15 情報倫理教育授業モデルの紹介

当協会が掲げる情報倫理教育の概要を解説するとともに、多くの大学で授業を実践するための一つの方策として、Webサイトにテキスト、スライド、動画・音声等の共通教材を掲載してオンデマンドでの活用を可能にする授業モデルを模擬授業を通して紹介する。

12:00 休憩

13:00 全体討議 『大学連携による情報倫理教育』

授業モデルの紹介を受けて、ネットワークにより大学が連携し、一丸となって情報倫理教育に取り組むことの必要性、ポータルサイト、支援体制のあり方などについて意見交換を行い、実現に向けての問題点の整理と今後のアクションプログラムを検討する。

14:30 休憩

15:00 分科会討議

『授業運営技術検討分科会』

教材作成方法などの授業情報技術、ネットワーク活用技術、ネットワークセキュリティ、素材の収集方法およびコンテンツの作成方法など、授業運営に関する技術について参加者が問題点を持ち寄り、解決策について検討する。

『授業内容検討分科会』

情報倫理教育を実施するための授業テーマ、内容、水準、実施環境や支援組織など、授業の内容や運営方法に関する種々の問題点について、参加者が経験を持ち寄り、解決策について検討する。

16:30 移動

16:40 コミュニケーション

18:00 終了

(2) 開催結果

参加者数は、58大学、6短期大学、賛助会員1社、計76名であった。開催

結果の詳細は、資料編【資料12.研修会関係資料】を参照されたい。

当初は、eラーニング教材のサンプルを提示することで、教材開発の重要性を訴え、共同開発への参加を呼びかけることを目的としたが、会場からの反応としては、eラーニング教材の公開と使用を求める声が大多数であり、未だ共同開発の段階にないことが判明した。そこで、次年度の対応について検討した結果、多くの学系で情報倫理教育が取り入れられることを目指すことになり、本協会として情報倫理教育を実践するための授業モデルと教材を提供することが早道であると判断し、本格的なeラーニングによる授業モデルを構築することにした。

そのため、次年度は研究集会の開催を休止し、授業モデルを全面的に見直し、先進の技術を盛り込んだeラーニング教材の構築に注力することになっている。

The screenshot shows a web browser window displaying an e-learning interface. On the left, there is a video player showing a person at a computer. Below the video is a 'Picture' gallery. The main content area is a slide titled 'まとめ' (Summary) with a list of bullet points. A second browser window is overlaid on the bottom right, showing a slide titled 'うまい話' (Nice Story) with a list of bullet points. A speaker icon is visible at the bottom right of the second window.

編集ソフトウェアを用いて、動画・音声とスライドを同期するeラーニング教材

- 個人情報の保護を意識する
 - 悪意のある者から
 - 自分の知らないところで
- 指示は危険
 - 全世界へ掲示しているのと同じ
 - 誰が見ているか分からない
 - 相手が見えない

うまい話

- ◆ 詐欺
 - 代金決済したが商品が届かない
 - 広告とおりの性能を発揮しない

スライドに音声による解説を追加した教材で、スライドだけでも使用できる